

子育てをするお母さん、バリバリ働くキャリアウーマン、笑顔が素敵なおばちゃん達。みんなすごくかっこいい。たくさん輝く女性の中から、竹原に縁のある女性「タケハラジェンヌ」を隔月で紹介します。表紙もチェックしてくださいね！

まずは、シンガーソングライターのおうずらさん。「かくや、パンダ体操」や「吉名学園」の作詞作曲、市内イベントの司会もたくさん務められています。

「岡田貴恵」として作詞作曲を手掛けられた吉名学園の学園歌。その想いを聞かせてください。この曲の制作には、携わった方が本当にたくさんいらつしやるんです。制作メンバーには学園歌の伴奏をつけて頂いたり、音をピアノ演奏用の譜面に起こして頂いたり。

●自分の目・心で「吉名学園」を知る。

校歌の歌詞は、それぞれの学校の理念を表していると思うんです。「こんな学校にしたい」、そんな「想い」がきつとある。

子ども達や地域の方から、歌詞に入れたい言葉を募ってみると、吉名の名所や、希望にあふれた言葉がたくさんありました。名所には、制作メンバーの案内で実際に一つずつ見に行っただけです。

そこから感じた印象から、「子ども達の手で未来を切り拓いてほしい。いつか吉名を離れても、吉名学園での日々を忘れないでいてほしい。」という思いを歌詞に込めました。

また、「学園歌」を、「合唱曲」として歌えるようにしたい、というお話もありました。音程の幅を決めて曲を作ったんですが、男の子と女の子で、得意な音程が違うので、そこを埋めるために制作メンバーがコーラスを付けてくれて。「子ども達が楽しく、好きで歌ってくれたら嬉しいな」そう思って作ったんですよね。

「活動10周年を迎えられたうずらさん。ここまで続けられた理由は何だと思えますか？」

実は、やめようかなって思いが頭をよぎったことはあるんですよ。やめたい、とは違うんですけど。

●ふたつにひとつ、選択の連続。

それは、人の評価を過剰に気にしていたときのこと。歌は、「やりたい」から始めた自分への挑戦だったはず。いつだって選べるんです。好きで続けるか、次のステージに向かうために、一度今の活動にピリオドを打つか。そのどちらかしかないんです。

でも、お客さんの心が動く理由って、色々あるんです。歌が上手だねって動く人、歌声がいいねって動く人、詩がいいねって動く人もいます。

他人の評価を気にしてばかりでは、オリジナリティは生まれません。そう気づいたら、続けたいって思った。支えてくれた人もいます。「今」やめるべきじゃないなって。もう少し続けてみよう、もう少し、と思ってやってみたらなんと10年続いた、そういう感じなんです。

「竹原への想いをきかせてください。」

お祭りの司会や、演奏者としての立場などを通じて、常に思っていることがあります。

●多くの人に「私達みんなで作りたいよる！」って感じてほしい

まず、自分に声がかかれば有難いし、とても嬉しい。「うずら」にしかできないやり方で、そのイベントを全力で盛り上げようって思っています。イベントには、必ず色がある。その色を瞬時に見分けるのも私の仕事。その立場からすると、関わる地域の人が味であり、魅力なんです。お祭り中学生が歌ったり、ダンスの発表があったり、地域の人で作る時間って、すごく大事だと思うんです。私は地域の「人」が好きです。私自身の心が動く瞬間です。もし、市内のお祭り全部が音楽ステーションになったら、全部同じお祭りになっちゃう。だから、関わる人みんなに「自分達みんなで作りたいよる」って感じて欲しい。それが一番竹原を盛り上げるんじゃないかと思うんです。



▲「私の一番の応援者は、間違いなく母。」と話してくれたうずらさん。

\* うずらさんのプロフィール \*

小さな体で大きく鳴く  
～心を歌ううずら～

詩の伝わりやすさを重視した楽曲づくりで広島県内を中心に活動中。

また、地元密着のケーブルテレビ「タネット」でフリーアナウンサーも務め、地域に根付いた活動を行っている。

●尊敬する女性は？

美空ひばりさんです。時代がこれだけ変わっても少しも色あせない、絶対的な存在。

●竹原名物、何が好き？

タケノコです。大好きな母が作ってくれる煮付けが本当に美味しい！

●竹原の「推しスポット」は？

吉名を巡った時に見た、「龍島」へは、干潮の時にできる道で渡ることができる。竹原の海が大好きです。